

南伊豆町立南上小学校
～学校統合に関する答申書～

平成 28 年 2 月 19 日 答申

南伊豆町学校統合審議会

木下 和美	佐野 薫	原 和秀	川合 信子
高橋 美智子	高橋 純	渡邊 治郎	鈴木 雅弘
高橋 智己	山根 美果	横田 裕美	菊池 源夫
加藤 生喜	鈴木 久香	山田 利朗	山本 義男
渡邊 節郎	竹河 十九巳		

はじめに

南伊豆町学校統合審議会は、平成 26 年 11 月 18 日に南伊豆町教育委員会から、南上小学校の再編成について諮問された。

諮問理由とし、平成 17 年度に開催された前回の学校統合審議会の「平成 26 年以降も複式学級が解消されない見込みであることが判明したときは改めて学校統合審議会を設置することが適当である」という答申内容を受けて改めて諮問されたものである。

南上小学校の複式学級についてと、テーマが絞られているため、審議会では、複式学級について掘り下げて検討を重ねてきた。

8 回の審議会を開催し、次代を担う子どもたちの教育効果を第一に考えて、南上小学校が学校として最大限の機能を発揮できる教育環境をつくり出すために、地域や学校風土に配慮しながら討議を重ね方策を取りまとめたので、ここに本審議会の検討結果を答申する。

平成 28 年 2 月 19 日

南伊豆町学校統合審議会 会長 木下 和美

南上小学校の再編についての結論

複式学級が 2 学級発生する見込みのときは、統合に向け速やかに再度統合審議会を開催し、統合年度を明らかにする。

本審議会において、この結論に至った経過等について、以下に記す。

I 南上小学校の統合についての提言

1. 前提となる南上小学校の統合に関する提言

(前回の統合審議会の内容：資料No.1)

本審議会の検討の基になる、平成 18 年 3 月の南伊豆町学校統合審議会の「小中学校の再編」による南上小学校の基本的な考えは、次のとおりである。

(1) 基本となる事項

複式学級を解消するため、南中小学校と南上小学校及び三浜小学校を統合するという素案で審議した。複式学級を早急に解消して適正規模の学校で教育を受けさせるべきということに委員の意見は一致したが、南上小学校は今後児童数が著しく減少する傾向はみられないため、「平成 26 年以降も複式学級が解消されない見込みであることが判明したときは改めて学校統合審議会を設置することが適当である」という結論であった。

2. 南上小学校の再編成について諮問されてからの経過

<input type="checkbox"/> 学校統合審議会の設置及び諮問（平成 26 年 11 月 18 日） 審議会委員の委嘱書の交付を行った。会長及び副会長の選出を行い、会長が南伊豆町教育委員長からの諮問を受けた。
<input type="checkbox"/> 第 1 回審議会（平成 26 年 11 月 18 日） <ul style="list-style-type: none">・ 前回の答申内容の確認・ 町内小中学校の児童生徒数の確認・ 今後の進め方についての確認
<input type="checkbox"/> 南上小学校授業見学（平成 26 年 12 月 2 日） <ul style="list-style-type: none">・ 南上小学校の複式学級を見学
<input type="checkbox"/> 第 2 回審議会（平成 27 年 1 月 26 日） <ul style="list-style-type: none">・ 複式学級のメリットデメリットの確認
<input type="checkbox"/> 南上地区区長会へ説明（平成 27 年 2 月 5 日） <ul style="list-style-type: none">・ これまでの議事内容の説明
<input type="checkbox"/> 第 3 回審議会（平成 27 年 2 月 25 日） <ul style="list-style-type: none">・ 地域における学校の役割、委員の変更について

<input type="checkbox"/> 新任委員への説明会（平成 27 年 5 月 22 日） ・これまでの議事内容の説明
<input type="checkbox"/> 南上地域振興協議会への説明会（平成 27 年 5 月 29 日） ・これまでの議事内容の説明
<input type="checkbox"/> 南上小学校授業見学（平成 27 年 6 月 24 日） ・南上小学校の複式学級を見学
<input type="checkbox"/> 第 4 回審議会（平成 27 年 7 月 1 日） ・アンケート調査について
<input type="checkbox"/> 第 5 回審議会（平成 27 年 8 月 3 日） ・アンケート調査について
<input type="checkbox"/> 第 6 回審議会（平成 27 年 11 月 9 日） ・アンケート調査について
<input type="checkbox"/> 第 7 回審議会（平成 27 年 12 月 17 日） ・答申書の内容について
<input type="checkbox"/> 第 8 回審議会（平成 28 年 2 月 1 日） ・答申書の内容について

3 南上小学校の基本的な考え方

南上小学校の統合について審議会を開催するうえで、様々な角度から検討する必要があると思われたが、そのベースには「子どもにとって何が良いのか」という考え方で審議会を開催した。

4 南上小学校の現状

(1) 南上小学校における児童数の現状と将来推計

「平成 26 年以降も複式学級が解消されない見込みであることが判明したときは改めて学校統合審議会を設置することが適当である」という前回の答申で設置された統合審議会であるため、児童数の現状と将来推計について、住民基本台帳から抽出して将来推計をした。（別添資料No.2）

現状においては複式学級が見られるものの、平成 31 年度及び 32 年度は、複式学級は解消され、平成 33 年度からは再度複式学級が発生する見込みである。児童数については、若干の増減はあるものの現状数（48 人程度）を維持している。

これは、あくまでも調査時点での推計であり、転入及び転出は見込んでいない数値

である。

とはいえ、南上地域は移住者に好まれる地域であり、かつ町の移住施策の拠点地域でもあることから、今後児童数が増える可能性のある地域である。

※（参考）前回の統合審議会開催時の平成 17 年度の児童数は 56 名。

（2）複式学級による学力問題

複式学級は、一般に教育上の課題が極めて大きいとされている。（公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き 平成 27 年 1 月 27 日文科科学省）

現在の南上小学校は、2 学年と 3 学年が複式学級であり、同じ教室で授業を受けている状況であり、それが効果している場面もあるが、課題があるのは事実である。

様々な課題があるが、その中で学力向上のため、町では臨時的任用職員（町費負担教員）を配置し、主要教科である国語、算数、理科、社会については学年を分けて単学年で授業を行っている。

（3）地域との連携

南上小学校は、運動会を中心に地域と学校との連携が良く図れている。他校においても地域連携は行っているが、運動会を地域と合同で行うという形式は近隣でも見られない。

地域においても、これを楽しみにしているという意見も多い。

（4）統合に対する保護者等の意識

現在在籍する南上小学校の全児童の保護者、これから南上小学校に就学予定の児童の保護者に対して、南上小学校の統合に関するアンケート調査を実施した。

（集計は資料No.3）

保護者の約 8 割が、「今後も統合をしない」及び「再度検討する（平成 33 年まで統合しない）」というものであった。

また、参考に南伊豆町立小中学校の教諭（管理職 10 名、一般教諭 43 名）もアンケート調査を実施した。（集計は資料No.4）

実際に統合した児童生徒やその保護者の現在の状況も把握したため、平成 26 年度に閉校し、南中小学校及び南伊豆中学校に通うことになった元三浜小学校児童生徒、その保護者及びその家族にもアンケート調査を実施した。（集計は資料No.5）

アンケートに対して快いご協力を賜った方々に感謝の意を表す。

（5）現状のまとめ

上記にさまざまな現状を記したが、南上小学校は、小規模校に見られがちな顕著なデメリットは見られない。

5 南上小学校の課題

(1) 教育効果の維持

南上小学校は、複式学級もあることから教職員の定数が十分ではない。必要最低限の教育を維持するための教職員数である。現在において、より高い教育効果を発揮するため町の臨時的任用職員を配置しているが、正規の教職員配置ではなく、あくまでも臨時的という性質上、好ましいものではない。今後、配置が見込めなくなる場合もある。

6 南上小学校の統合について

(1) 統合の考え

児童の教育的効果を優先する。学校は地域の精神的支柱であることから、南上小学校に対する地域や保護者の厚く強い思いもあるが、現状において、どのような状態が教育的効果を発揮するかを統合の基本とした。

(2) 統合の時期

教育的効果に配慮するため、複式学級が2学級発生する見込みのときは、統合に向け速やかに統合審議会を開催し、統合年度を明らかにする。

7 将来的な提言

(1) 南上小学校への期待

南上小学校と地域との連携は、他地域に誇れるすばらしい財産である。

南上小学校は地域との連携が密であることから、よりよい学校運営や地域活性化が図れるよう、地域も更に学校との連携を図り、コミュニティスクール的な活動を取り入れるなど、子どもたちが誇りに思える南上小学校が創られることを期待する。

(2) 南伊豆町立小中学校について

すべての小中学校が小規模校であるため、専科教員の配置が十分ではない。将来的な小学校の英語必修化などの対応に不安もある。南伊豆町の将来的な人口の推移を鑑みると、いずれは1小学校1中学校になると思われるが、その時期は不透明である。

中学校においては、生徒数の減少による部活動の維持についても問題化しつつある。これら諸問題を解決するため、南伊豆町全体の教育の在り方について方向性を示す時期である。

小中一貫校制度についても検討を行い、児童生徒が教育格差を感じないように検討をお願いします。



平成 18 年 2 月 27 日

南伊豆町教育委員会
委員長 岡部 順之 様

南伊豆町学校統合審議会
会長 佐藤 保孝

小中学校の再編成について (答申)

平成 17 年 6 月 13 日付け南教第 110 号により諮問があったこのことについては、慎重に審議した結果、下記のとおり答申します。

記

1. 小学校を統合して再編成することについて

【審議状況】

教育委員会が示した「複式学級を解消するために竹麻小学校と南崎小学校を統合し、南中小学校と南上小学校及び三浜小学校を統合する。」という素案をもとに審議した。

複式学級を早急に解消して適正規模の学校で子供たちに教育を受けさせるべきであるということについては委員の意見が概ね一致した。

しかし、複式学級が 2 学級ある南崎小学校及び三浜小学校と 1 学級の南上小学校とでは保護者及び地区住民の認識の程度に差が見られた。

南崎小学校では速やかに統合したい、三浜小学校では平成 26 年までに複式が解消されなければ統合も止むを得ないという意見が多かった。

南上小学校では今後児童数が著しく減少する傾向は見られないため現時点では統合をせず、児童数を増やして複式学級を解消し、学校を存続すべきだという意見が多かった。

【結論】

- 1 南崎小学校を竹麻小学校に、三浜小学校を南中小学校に統合すべきである。
- 2 南上小学校は当面は統合を見合わせて、平成 26 年以降も複式学級が解消されない見込みであることが判明したときは改めて学校統合審議会を設置することが適当である。

2. 中学校を統合することについて

【審議状況】

教育委員会の素案は「現在南伊豆東中学校が全ての学年で単学級となっており、南伊豆中学校も平成19年から単学級の学年ができることが予想されている。単学級の中学校においては、教員数も少なく全ての教科に専門教員を配置することができないことや、生徒数が少ないため部活の数も少なく選択肢が限られること等の問題があるため中学校を1校に統合したい。」というものであった。

現実に単学級になっている南伊豆東中学校においては、部活動や男女比等の面で問題が現れており、保護者の大部分が統合を望んでいる。一方、2学級ある南伊豆中学校の保護者は統合する必要性を感じておらず消極的であった。

審議会では単学級の弊害が出ている現実を受け止め、将来を見据えて統合すべきだという意見が多数であった。

しかしどちらの学校へ統合するという点については、校舎が新しいことや通学の利便性で南伊豆東中学校が優れているのに対して、統合することに消極的な南伊豆中学校の方が生徒数が多いこともあって結論が得られなかった。

【結論】

南伊豆東中学校、南伊豆中学校の2校を1校に統合すべきである。ただしどちらの学校に統合するかについては慎重に検討されたい。

3. 統合の順序及び年次別計画について

【審議状況】

教育委員会の素案は「学校施設は国庫補助により建設されており、建設後10年以内に他の目的に転用した場合は補助金返還を余儀なくされるため、脆弱な財政状況を考慮すると極力補助金返還は回避しなければならないので、制約のなくなる時期（南崎小・22年、三浜小・26年）に統合したい。」とするものであった。

しかし南崎小学校においては以前から小規模校の弊害が顕著に現れているため早急に統合すべきであるという意見が出されていることから、当審議会では子供たちの教育上の配慮を優先し、各学区における保護者及び住民の意向も尊重して結論を出すことになった。

【結論】

- 1 南崎小学校は諸条件が整い次第速やかに統合すべきである。
- 2 三浜小学校は平成 26 年までに複式学級が解消されない場合は平成 26 年に統合すべきである。
- 3 中学校については諸条件が整い次第速やかに統合すべきである。

4. 廃校となる施設の跡地利用について

【審議状況】

耐用年数に達していない学校施設は公共用に使用しない限り補助金返還の対象となるため、廃校となる施設は必然的に公共用施設とせざるを得ないと考えられる。

従って教育委員会が町長部局と協議して決定すべき問題である。

【結論】

当審議会では結論を出すことは適当ではない。

今後の南上小学校児童数推移(平成27年12月1日現在)

単位:人

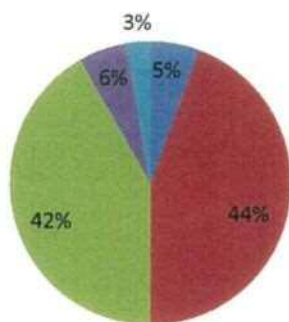
複式学級

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
平成27年度	10	5	5	7	14	8	49
平成28年度	7	10	5	5	7	14	48
平成29年度	10	7	10	5	5	7	44
平成30年度	11	10	7	10	5	5	48
平成31年度	4	11	10	7	10	5	47
平成32年度	9	4	11	10	7	10	51
平成33年度	7	9	4	11	10	7	48
平成34年度		7	9	4	11	10	41
平成35年度			7	9	4	11	31
平成36年度				7	9	4	20
平成37年度					7	9	16
平成38年度						7	7

資料No. 3

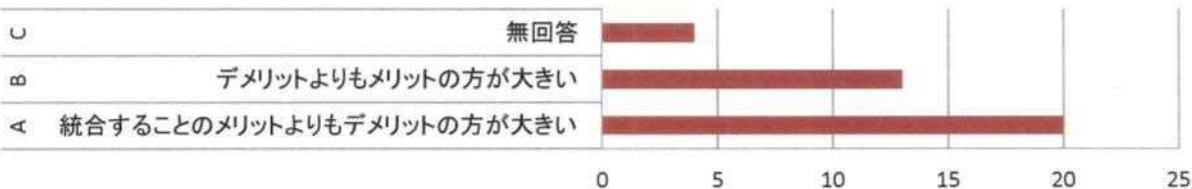
学校統合アンケート集計(南上小保護者)回答人数36名

問1 南上小の統合についてどう思いますか

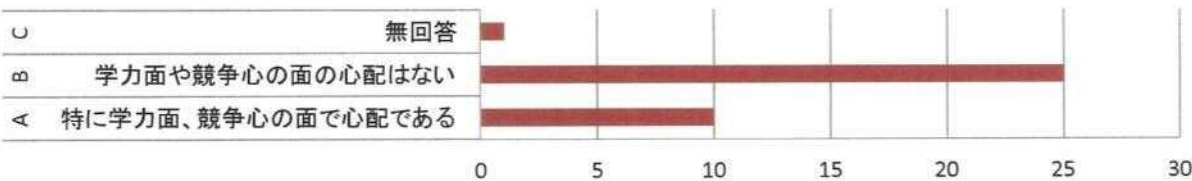


- 1 今すぐ統合すべき 2名
- 2 再度検討する(平成33年まで統合しない) 16名
- 3 今後も統合しない 15名
- 4 その他 2名
- 5 無回答 1名

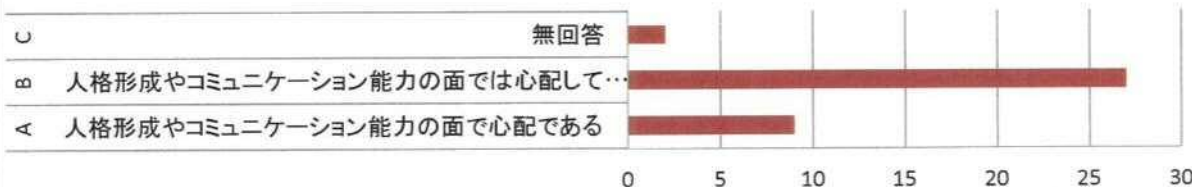
問2 全体的に見て



問2 学力や競争心



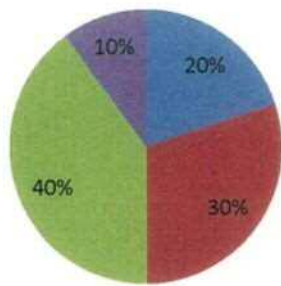
問2 精神・人格・交友



問2 地域活性化・地域連携



問1 南上小の統合についてどう思いますか

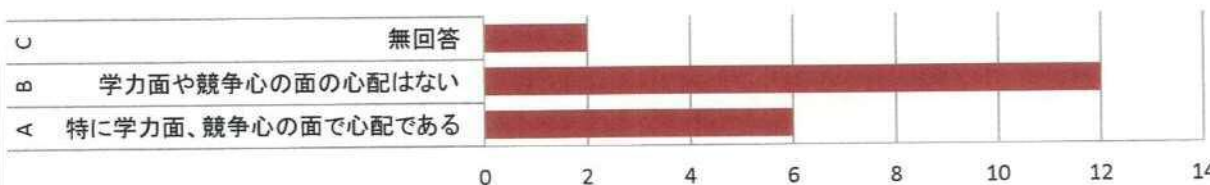


- 1 今すぐ統合すべき 4名
- 2 再度検討する(平成33年まで統合しない) 6名
- 3 今後も統合しない 8名
- 4 その他 2名

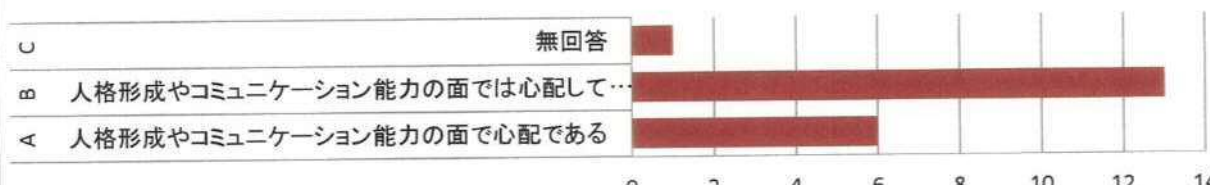
問2 全体的に見て



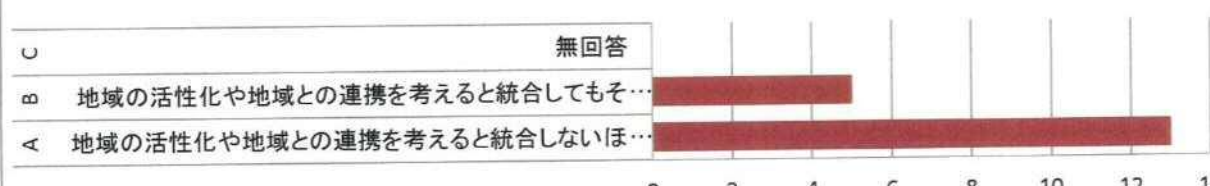
問2 学力や競争心



問2 精神・人格・交友



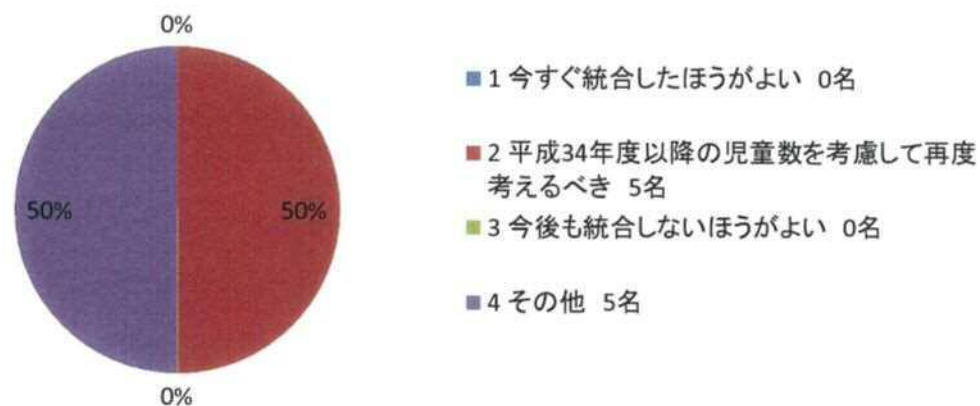
問2 地域活性化・地域連携



資料No. 4

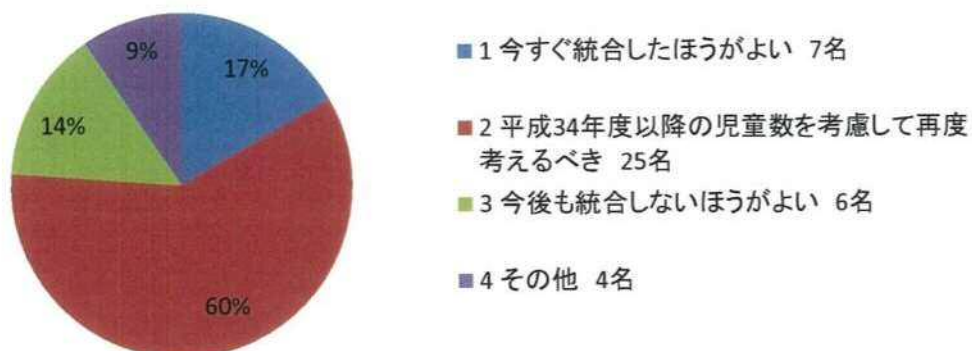
学校統合アンケート集計(教職員:管理職)回答人数10名

南上小についてどのように思っていますか？



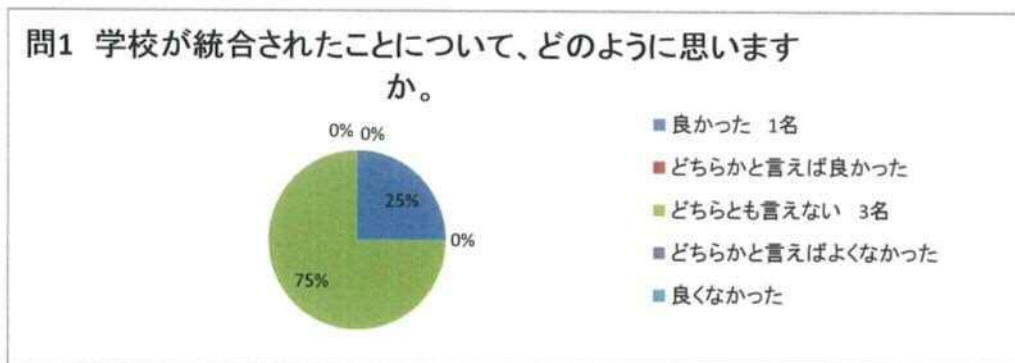
学校統合アンケート集計(教職員:一般職)回答人数43名

南上小についてどのように思っていますか？



資料No. 5

学校統合アンケート集計(三浜小から学校が変わった児童生徒)回答人数 6名



問2 以下のことについて、学校統合前と比べてどのように思いますか。

① 学校が統合して友達が増えた。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
6				

② 学級の人数が増えたことにより、今までより勉強する気が出てきた。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
3			2	1

③ 学級の人数が増えたことにより、今までよりも色々なことが経験できる。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
2	1	3		

④ 運動会や遠足、学習発表会などの学校行事が今までよりも楽しくなってきた。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
1	2	2	1	

⑤ 友達と仲良くなれるか心配したが、すぐに友達になることができた。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
5	1			

⑥ 三浜小がなくなって寂しい気がする。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
5	1			

⑦ 学校が遠くなったので登下校が大変である。

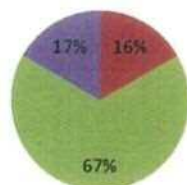
そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
3		1		2

⑧ 三浜小がなくなり、三浜地区がさみしくなった気がする。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
3		2		1

学校統合アンケート集計(三浜小から学校が変わった児童生徒の保護者等)回答人数 7名

問1 学校が統合されたことについて、どのように思いますか。



- 良かった
- どちらかと言えば良かった 1名
- どちらとも言えない 4名
- どちらかと言えばよくなかった 1名
- よくなかった

問2 以下のことについて、学校統合前と比べてどのように思いますか。

① 様々な個性を持つ多くの友達と触れ合うことができている。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう 思わない	そう思わない
5	2			

② 良い意味で競争心が芽生え、子どもの学習意欲が高まった気がする。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう 思わない	そう思わない
1	2	2	2	

③ 学級規模が大きくなったことにより、社会性を身につける機会に恵まれる。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう 思わない	そう思わない
2	2	1	2	

④ 学級規模が大きくなったことにより、いろいろな役割分担を経験できる。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう 思わない	そう思わない
1	1	1	3	1

⑤ 運動会や学習発表会において、子どもの活動の幅が広がった。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう 思わない	そう思わない
1	1	2	2	1

⑥ 子どもが学校になじめるか心配したが、すぐになじむことができた。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう 思わない	そう思わない
1	3	1	2	

⑦ 学級やPTA組織などの役割分担が少なくなり、保護者の負担が軽減された。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう 思わない	そう思わない
2	2	2		1

⑧ 統合により新しいPTA組織となったが、保護者間の連携はうまくいっている。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう 思わない	そう思わない
1	1	3	2	

⑨ 友達が増えたことにより、子どもが活発になった気がする。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
1	2	3	1	

⑩ 学校が統合されてから、放課後などに友達と遊ぶ機会が増えた。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
1	1		3	2

⑪ 遠距離通学となり、登下校の安全や児童の負担が心配である。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
5	1	1		

⑫ 学校との距離が遠くなり、学校への関心が薄くなった。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
1	2	3		1

⑬ 地域の核となる学校がなくなり、地域の活気がなくなった気がする。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
4	1	2		

⑭ 学校規模が大きくなったことにより、学力の低下がみられる。

そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない ・わからない	どちらかと言えばそう思 わない	そう思わない
1		2	2	2